

瑞穂中央地区都市再生整備計画事業事後評価

平成23年12月 1日

第2回 瑞穂中央地区 都市再生整備計画事業 評価委員会

瑞穂市都市開発課



次第

- 都市再生整備計画事業について P 3
 - 1.制度の概要 P 4
 - 2.事業評価 P 5～6
- 事後評価について P 7
 - 1.事後評価の実施方法 P 8
 - 2. 評価委員会 P 9
- まちづくりの経緯 P10
 - 1.瑞穂中央地区都市再生整備計画の概要 P11～15
 - 2.事業実施成果 P16～17
- 事後評価手続きにかかる審議 P18
 - 1.事後評価方法書 P19～20
 - 2.数値指標到達状況と効果発現要因の整理 P21～33
 - 3.実施過程の評価 P34
- 今後のまちづくりについての審議 P35
 - 1.まちの課題の変化 P36
 - 2.今後のまちづくり方策 P37

事後評価の手続きに かかる審議

1. 事後評価方法書
2. 数値指標到達状況と
効果発現要因の整理
3. 実施過程の評価

1.事後評価方法書(1/2)

事後評価方法書とは

各評価項目について、いつ頃、どのような作業を行うことによって評価を実施するか、その方法をあらかじめ設定する、評価の“実施計画書”のこと。

具体的には、都市再生整備計画に記載した定量的な指標の「計測時期」「計測方法」「各種検討作業の時期」「主体」「検討手法」を書き示すものである。

方法書の作成手順

(1)成果の評価方法

- 1)都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 2)その他の数値目標により計測される効果発現状況

(2)実施過程の評価方法

(3)効果発現要因の整理方法

(4)今後のまちづくり方策の作成方法

(5)事後評価原案等の公表方法

(6)都市再生整備計画事業評価委員会の審議

(7)事後評価に必要な経費に関わる予算措置の状況

事後評価の実施

1.事後評価方法書(2/2)

- 都市再生整備計画に記載した事後評価指標は以下の3つの指標である。

指標名	評価内容
防災対策に対する満足度	災害に強いまちづくりに対する市民の満足度
避難所の屋内収容人数	被災時における屋内収容人数
住民一人当たりの河川公園面積	エリア内の住民一人当たりの河川公園面積

- 今回の瑞穂中央地区都市再生整備計画事業の事後評価については、「都市再生整備計画事後評価方法書 瑞穂中央地区」に基づいて実施している。

以下の指標については、事後評価方法書を作成した際に追加した指標である。

追加指標名	追加理由
避難場所、避難経路の整備に対する満足度	都市再生整備計画に記載した「指標1:防災対策に対する満足度」は本事業内容の防災対策で「避難道路の整備」と「治水対策」で分けて考えることができ、分けて評価した方がより適切な評価となるため、「指標1」を補う指標として本指標を設けた。
河川、水路の整備に対する満足度	都市再生整備計画に記載した「指標1:防災対策に対する満足度」は本事業内容の防災対策で「避難道路の整備」と「治水対策」で分けて考えることができ、分けて評価した方がより適切な評価となるため、「指標1」を補う指標として本指標を設けた。
避難所の屋内収容人数割合	都市再生整備計画に記載した「指標2:避難所の屋内収容人数」については避難所の収容人数のみに着目したアウトプット指標であるため、アウトカム指標として、施設が整備されたことにより増加した収容人数を瑞穂中央地区内人口で除した本指標を設けた。

2. 数値指標到達状況と効果発現要因の整理 (1/13)

指標1 防災対策に対する満足度

従前値: 18% (平成16年度)

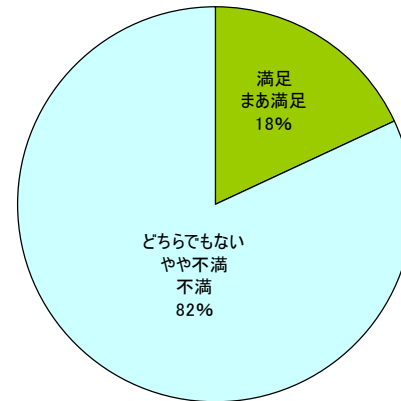
⇒ 目標値: 36% (平成23年年度)

定義等

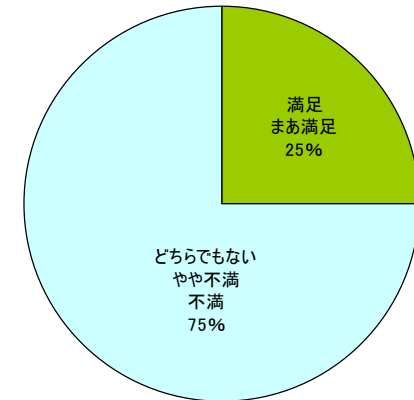
瑞穂中央地区の災害に強いまちづくりに対する市民の満足度

評価値の求め方

平成23年8月にアンケートを実施。従前値を求めた際と同一の調査項目を設けて当該地区の災害に強いまちづくりに対する満足度を計測し、そのまま評価値(見込み)とする。



従前値
(平成16年9月時点)



評価値(見込み)
(平成23年8月時点)

評価値: 25%

目標値: 36%

瑞穂中央地区内では避難路の確保や河川・水路の整備が進められており、目標値には届かないものの、従前値と比べて7%程満足度が向上している。

2. 数値指標到達状況と効果発現要因の整理 (2/13)

指標1 防災対策に対する満足度

従前値: 18% (平成16年度)

⇒目標値: 36% (平成23年度)

指標直接該当事業

- 基幹: (道路)市道7-2-89号線
- 基幹: (道路)市道1-3-86号線
- 基幹: (道路)市道1-3-85号線
- 基幹: (道路)市道1-3-82号線
- 基幹: (道路)市道1-1-1号線
- 基幹: (道路)市道5-1-3号線
- 基幹: (道路)市道3-1-2号線
- 基幹: (道路)市道5-3-408号線
- 基幹: (地域生活基盤施設)(仮称)本田ふれあい広場
- 基幹: (高次都市施設)(仮称)本田コミュニティセンター
- 提案: (地域創造支援事業)水路整備

指標間接該当事業

- 基幹: (道路)7-3-551-1号線
- 基幹: (道路)4-3-351号線
- 基幹: (道路)4-3-347号線
- 基幹: (道路)5-3-419号線
- 関連: 犀川統合排水機場新設事業
- 関連: 新堀川新設放水路整備事業
- 関連: 市道宝江横屋線整備事業
- 関連: 県道美江寺西結線交通安全事業
- 関連: 一級河川犀川河川改修事業
- 関連: 瑞穂市消防署建設事業

所見

災害に強いまちづくりのため、避難経路や排水路の整備を推進したことで、防災対策に対する満足度は増加している。しかし、近年の大規模災害による不安が影響し、目標値に達していないと考える。



今後の活用

「安全で安心して暮らせるまちづくり」のため更なる整備を進めると共に、地域防災力の強化に努める。

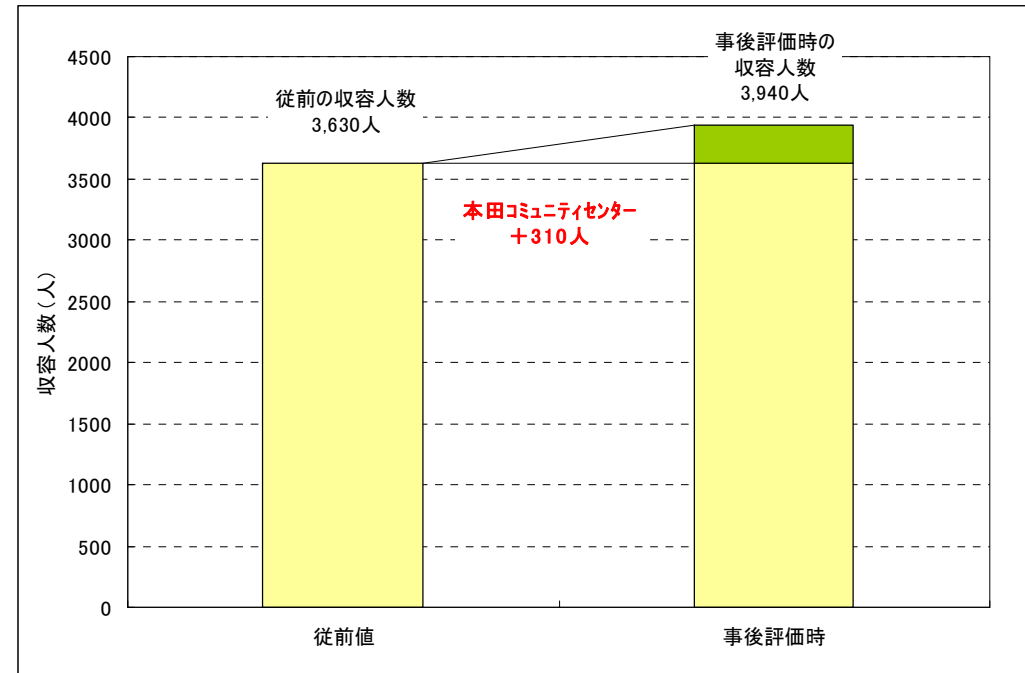
2. 数値指標到達状況と効果発現要因の整理 (3/13)

指標2 避難所の屋内収容人数

従前値: 3,630人 (平成18年度)

⇒ 目標値: 3,940人 (平成23年度)

定義等
瑞穂中央地区内の避難所の 屋内収容人数合計
評価値の求め方
瑞穂中央地区内の各避難所の収容 人数を足し上げることで合計収容人 数を算出。 (避難所) <ul style="list-style-type: none"> ・本田小学校 ・ほづみ幼稚園 ・牛牧小学校 ・牛牧南部コミュニティセンター ・本田コミュニティセンター



従前値: 3,630人
(平成18年度)

評価値: 3,940人
(平成23年度末)

平成21年3月には本田コミュニティセンターが完成し、目標値(3,940人)を達成した。

2. 数値指標到達状況と効果発現要因の整理 (4/13)

指標2 避難所の屋内収容人数

従前値: 3,630人 (平成18年度)

⇒目標値: 3,940人 (平成22年3月)

指標該当事業

基幹: (高次都市施設)

(仮称)本田コミュニティセンター

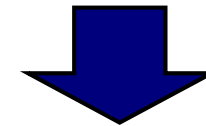
指標間接該当事業

基幹: (地域生活基盤施設)

(仮称)本田ふれあい広場

所見

被災時における避難所を確保するため、本田コミュニティセンターの建設を実施し、屋内収容人数を増加させることができた。



今後の活用

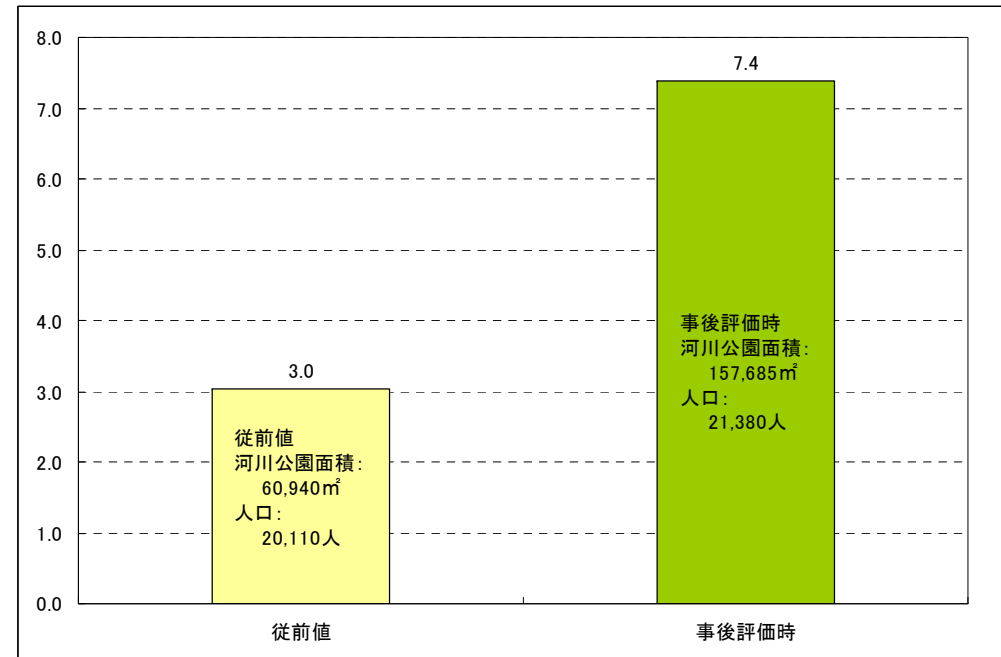
自主防災訓練や講習など地域防災活動の拠点としての利用促進を図る。

2. 数値指標到達状況と効果発現要因の整理 (5/13)

指標3 住民一人当たりの河川公園面積

従前値: 3.0^m (平成18年度)
 ⇒ 目標値: 7.8^m (平成23年度)

定義等
瑞穂中央地区を対象とした、住民一人当たりの河川公園面積
評価値の求め方
瑞穂中央地区内の河川公園の面積を、瑞穂中央地区内の人口で除すことにより住民一人当たりの河川公園面積を算出し、そのまま評価値とする。



従前値: 3.0^m
 (平成18年度)

評価値: 7.4^m
 (平成23年度末)

平成23年度末で河川公園が完成することで、評価値が従前値の3.0^m⇒7.4^m増加が見込まれる。
 但し、人口の増加が大きく、目標値を若干下回る見込みである。

2. 数値指標到達状況と効果発現要因の整理 (6/13)

指標3 住民一人当たりの河川公園面積

従前値: 3.0m² (平成18年度)

⇒目標値: 7.8m² (平成23年度末)

指標直接該当事業

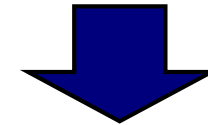
基幹: (公園)(仮称)犀川遊水地公園

基幹: (公園)五六川親水公園

基幹: (公園)本田西之島公園

所見

親水空間を活用した憩いの場の創出のため、河川公園整備を実施したことで、区内の河川公園面積は増加する。しかし、人口増加が大きいため、住民一人当たりの河川公園面積は目標値を若干下回る見込みである。



今後の活用

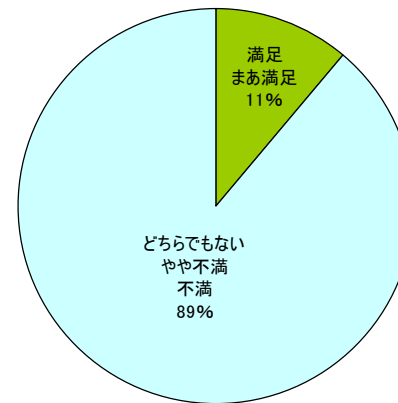
河川と身近に触れ合い、その役割や自然環境への意識向上を図るため、環境学習の場として利用していく。

2. 数値指標到達状況と効果発現要因の整理 (7/13)

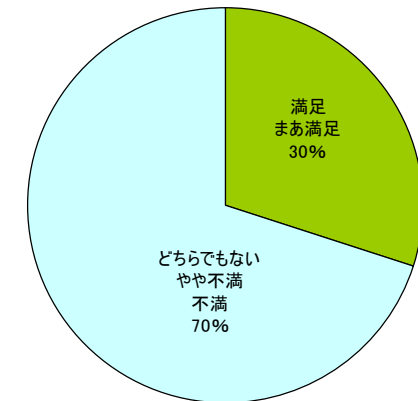
その他
指標1

避難場所、避難経路の整備に対する満足度

定義等
瑞穂中央地区の避難場所、避難経路の整備に対する満足度
評価値の求め方
平成23年8月にアンケートを実施。従前値を求めた際と同一の調査項目を設けて当該地区の避難場所、避難経路の整備に対する満足度を計測し、そのまま評価値(見込み)とする。



従前値
(平成19年1月時点)



評価値(見込み)
(平成23年8月時点)

瑞穂中央地区内の避難場所、避難経路の整備に対する満足度は、従前値の11%から30%と、従前に比べ、約3倍程度の評価を得ている。

2. 数値指標到達状況と効果発現要因の整理 (8/13)

その他 指標1 避難場所、避難経路の整備に対する満足度

指標直接該当事業

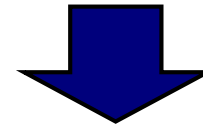
基幹:(道路)市道7-2-89号線
基幹:(道路)市道1-3-86号線
基幹:(道路)市道1-3-85号線
基幹:(道路)市道1-3-82号線
基幹:(道路)市道1-1-1号線
基幹:(道路)市道5-1-3号線
基幹:(道路)市道3-1-2号線
基幹:(道路)市道5-3-408号線
基幹:(高次都市施設)
 (仮称)本田コミュニティセンター
基幹:(地域生活基盤施設)
 (仮称)本田ふれあい広場

指標間接該当事業

基幹:(道路)市道4-3-351号線
基幹:(道路)市道4-3-347号線
基幹:(道路)市道5-3-419号線
関連:市道宝江横屋線整備事業
関連:県道美江寺西結線交通安全事業

所見

災害時における速やかな避難・救援体制づくりのため、避難所建設や避難経路の整備を進めたことで、平常時の利用においても利便性が向上し、評価が得られた。



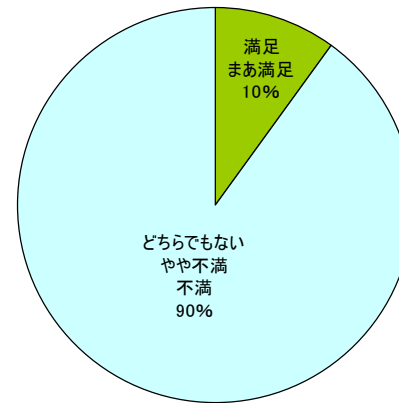
今後の活用

今後も同様の事業を継続的に実施すると共に、防災訓練を通じて防災力の強化に努める。

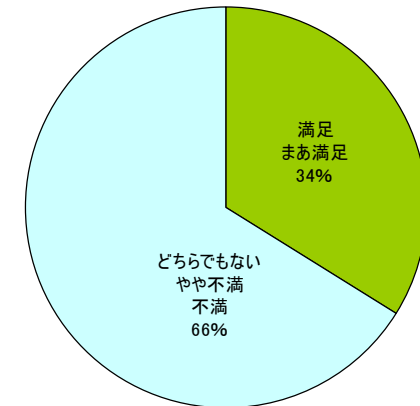
2. 数値指標到達状況と効果発現要因の整理 (9/13)

その他
指標2 河川、水路の整備に対する満足度

定義等
瑞穂中央地区の河川、水路の整備に対する満足度
評価値の求め方
平成23年8月にアンケートを実施。従前値を求めた際と同一の調査項目を設けて当該地区の河川、水路の整備に対する満足度を計測し、そのまま評価値(見込み)とする。



従前値
(平成19年1月時点)



評価値(見込み)
(平成23年8月時点)

瑞穂中央地区内の河川、水路の整備に対する満足度は、従前値の10%から34%と、従前に比べ、約3倍程度の評価を得ている。

2. 数値指標到達状況と効果発現要因の整理(10/13)

その他
指標2

河川、水路の整備に対する満足度

指標直接該当事業

提案:(地域創造支援事業)水路整備

指標間接該当事業

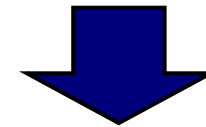
関連:一級河川犀川河川改修事業

関連:新堀川新設放水路整備事業

関連:犀川統合排水機場新設事業

所見

浸水被害を防止するため、国・県による治水対策事業として犀川統合排水機場の新設や、新堀川放水路整備が実施されたことや、本事業による幹線排水路整備が推進したことで、排水条件が改善され評価が得られた。



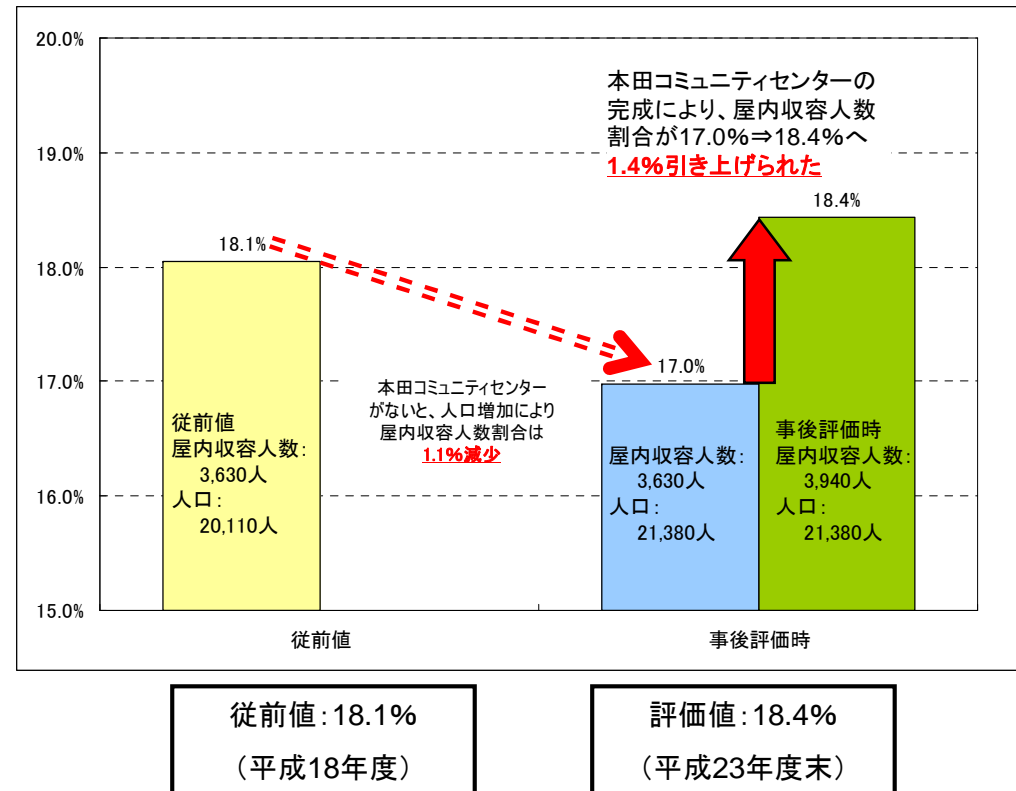
今後の活用

今後も同様の事業を継続的に実施することで、排水条件を改善し、治水対策の推進に努める。

2. 数値指標到達状況と効果発現要因の整理 (11/13)

その他 指標3 避難所の屋内収容人数割合

定義等
瑞穂中央地区内の人口に対する避難所の屋内収容人数の割合
評価値の求め方
瑞穂中央地区内の各避難所の収容人数を足し上げた合計収容人数を瑞穂中央地区内の人口で除して算出(避難所)
<ul style="list-style-type: none"> ・本田小学校 ・ほづみ幼稚園 ・牛牧小学校 ・牛牧南部コミュニティセンター ・本田コミュニティセンター



既存施設のまま人口が増加した場合、地区内の屋内収容可能人数割合が17.0%と減少していたが、整備により18.4%と1.4%増加した。

2. 数値指標到達状況と効果発現要因の整理 (12/13)

その他 指標3 避難所の屋内収容人数割合

指標該当事業

基幹：(高次都市施設)

(仮称)本田コミュニティセンター

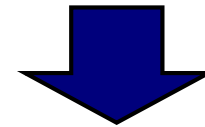
指標間接該当事業

基幹：(地域生活基盤施設)

(仮称)本田ふれあい広場

所見

地区内人口が増加しており、既存施設だけでは屋内収容人数割合が減少していた。しかし、被災時における避難所として、本田コミュニティセンターを建設したことで、屋内収容人数割合を引き上げられた。



今後の活用

自主防災訓練や講習など地域防災活動の拠点としての利用促進を図る。

2. 数値指標到達状況と効果発現要因の整理 (13/13)

平成23年8月に実施した「瑞穂中央地区 事業効果に関する調査」アンケートでの「やや不満」「不満」と回答した理由についての自由意見 <参考>

問5. 「やや不満」「不満」と回答した理由についての自由意見。

意見の分類	詳細等
避難場所について	各コミュニティセンター等の避難場所に避難するまでの一時的な避難場所があると良い。
	避難場所が少ない。また立地が偏っており、避難場所まで遠い。
	近くに避難場所が無い。また標示がない。
	避難場所に関してはもっと宣伝告知して欲しい。
避難道路について	まだまだ避難道路の整備が行き届いていない。
	避難道路が途中で止まっているため、早急に延長、拡幅推進を願う。
河川・水路について	災害から35年もたつのに、五六川、犀川の整備が進んでいない。
	五六川下流は大雨が降ると、道路すれすれまで増水するため、心配である。大きなポンプ等を設置して欲しい。牛牧周辺は困っている。
	穂積は川は多いので、今の水路では不安。

3.実施過程の評価

犀川子どもの水辺協議会

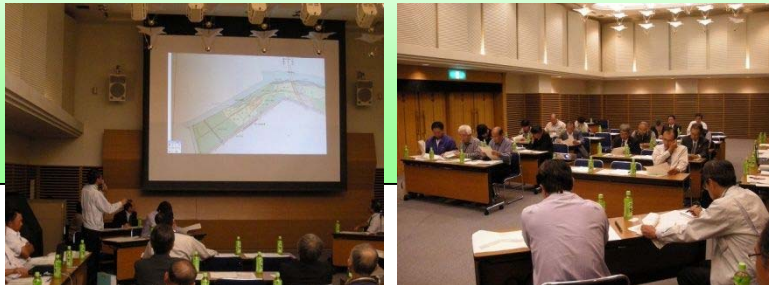
平成19年度
～平成23年度

<実施結果>

「犀川子ども水辺協議会」「検討委員会」の開催

年度	内容
19年度	協議会(2回):活動報告、工事予定・進捗報告
20年度	協議会(2回):活動報告、工事予定・進捗報告
21年度	協議会(2回):活動報告、工事予定・進捗報告 検討委員会(3回):イベント検討、公園整備の進捗等
22年度	協議会(1回):活動報告、工事予定・進捗報告 検討委員会(3回):イベント検討、公園整備の進捗等
23年度	協議会(1回予定):活動報告、工事予定・進捗報告 検討委員会(4回予定):イベント検討、ルール作りについて

協議会開催の様子



「犀川子ども水辺の楽校」の活動

年度	内容	参加者延べ人数
19年度	4度開催。いかだ競争、お魚調査隊、BMXと迷路で遊ぼう、野鳥見学会等	260人
20年度	2度開催。アジサイ植樹、自然観察会等	230人
21年度	5度開催。アジサイ植樹、墨俣一夜城いかだ競争、自然観察会等	440人
22年度	4度開催。全国豊かな海づくり大会、墨俣一夜城いかだ競争、河川敷で遊ぼう、凧をつかって飛ばそう等	420人

※野鳥調査は毎年度、毎月実施



<今後の対応方針等>

今後も市民参加による活動等を通じて、河川空間を地域住民の環境学習の場として、継続的に活用していく予定である。

今後のまちづくりについて の審議

1. まちの課題の変化
2. 今後のまちづくり方策

1. まちの課題の変化

まちづくりの課題	整備方針	実施事業	達成されたこと	事業後に残された課題
治水対策 瑞穂市には一級河川（16本）が集中しており、古くから幾度となく大水害に見舞われてきた。このことから、国、県による治水対策事業や幹線排水路整備を推進する。	〔治水対策の推進〕 ・排水条件の改善による治水対策の推進。	地域創造支援事業(水路整備) 「野白新田,別府」 関連事業(犀川統合排水機場新設事業) 関連事業(新堀川新設放水路整備事業) 関連事業(一級河川犀川改修事業)	・治水対策の推進のため、幹線排水路整備の推進を行った。 ・国、県の事業による犀川統合排水機場の新設や、新堀川放水路整備により、治水対策が推進された。	・近年多発する集中豪雨に伴う、排水量の増加に対応するため、今後も幹線排水路の整備の推進が必要である。
河川環境づくり 地域住民が治水や利水、環境に対して、河川が持つ役割を学ぶ場の提供が必要である。	〔河川との触れ合い、環境の改善〕 ・遊歩道整備(避難経路として活用) ・親水公園(治水・環境学習)	歩道(市道7-3-551-1号線) 歩道(市道4-3-351,4-3-347,5-3-419号線) 公園(犀川遊水地公園) 公園(五六川親水公園) 公園(本田西之島公園) まちづくり活動推進事業(犀川水辺の楽校・環境学習)	・河川公園の整備方針を「水辺協議会」に諮りながら事業を実施し、また環境学習の場として「犀川子ども水辺の楽校」の活動を推進した。(目標値である「住民一人当りの河川公園面積」は地区内の人口増加が大きく満足できないが、「河川が持つ役割について認識を深められる憩いの場」としての創出は達成された。)	・河川環境学習のための「犀川子ども水辺の楽校」によるイベント活動を充実する必要がある。
消防・防災対策				
防災環境の整備 住宅密集地において、避難所や避難経路、延焼防止空間としての道路や公園等の整備を進めるとともに、広域的な緊急輸送経路ネットワークを構築することが必要である。	〔防災環境づくりの推進〕 ・災害発生時における速やかな避難・救援体制づくりの推進。	避難経路(市道7-2-89号線) 避難経路(市道1-3-82,1-3-85,1-3-86号線) 避難経路(市道1-1-1号線) 避難経路(市道3-1-2号線) 避難経路(市道5-1-3号線) 避難経路(市道5-4-408号線) 歩道(市道7-3-551-1号線) 歩道(市道4-3-351,4-3-347,5-3-419号線) 高次都市施設(本田コミュニティセンター) 地域生活基盤施設(本田ふれあい広場) 関連事業(県道美江寺西結線交通安全事業) 関連事業(市道宝江横屋線整備事業)	・避難所や避難経路の整備により、防災対策基盤整備が推進された。 ・防災体制づくりとして、瑞穂消防署の整備とともに、人材の確保がされ、地域に密着した組織づくりが整えられた。 ・地域防災力の向上を図るため、自主防災組織育成の支援体制が整えられた。 ・瑞穂消防署の整備により救急救団体制が整えられ、応急体制づくりとして、避難所倉庫に炊き出し器具等を完備した。 ・本田コミュニティセンターの整備により、平常時は地域防災コミュニティの場として寄与している。	・アンケート結果からも防災対策に対する十分な満足度が得られていないことや、近年多発する大規模災害に対応するため、避難所、避難経路の更なる整備を地域住民の意見を反映しつつ、推進する必要がある。
防災体制づくり 新市として統合した常備消防防災づくりを進めるため、消防署の整備とともに、必要な人材を確保し消防教育や訓練を通じて地域に密着した組織づくりが必要である。	〔地域防災力の強化〕 ・地域防災拠点を整備し、防災訓練や講習を通じて地域住民の防災力を高める。	関連事業(瑞穂消防署建設事業) <<自主防災組織育成補助の創設>> <<各事業所との防災協定>>	・防災行政無線受信ラジオの配布により、防災情報ネットワークが整った。	・地区内において、自主防災組織による防災訓練が十分に実施されていないため、今後も防災訓練や、消防署による講習会を促進する必要がある。 ・災害時の地域支援活動をスムーズに行なうため、地域コミュニティによる具体的な救援・救護体制の構築を支援する必要がある。
救急・救助・応急体制づくり 災害時の救急・救助等のため必要な施設や装備(避難所、備蓄倉庫など)の充実を図るとともに、医師会との広域体制を整備する必要がある。				
防災情報ネットワークづくり 防災発生時の状況把握や避難情報などの緊急情報が、正確かつ迅速に収集・伝達できるよう、防災情報ネットワークづくりの整備が必要である。				
新たな課題				
・防災対策に対する十分な満足度が得られていないため、さらに避難経路等の整備を推進する。 ・地域交流による積極的な自主防災の取り組みや、災害時に効率的・組織的な活動を行うための人材育成を支援する必要がある。 ・排水量の増加に対応するため、排水路整備や排水機場改修を推進する。				

※<<>>内の事業は、課題に関連する市単独事業である。実施事業の内、青字については平成23年度整備事業である。

2. 今後のまちづくり方策

項目	基本的な考え方	想定される事業(案)
治水対策整備の充実	・治水対策として、排水路整備や排水機場改修を推進し、更なる浸水解消を図る。	・排水路整備事業 ・排水機場改修事業
避難経路の充実	・地域住民の意見を反映させつつ、避難経路の整備を推進する。	・避難経路整備事業
地域防災活動の支援	・「自分たちのまちは自分たちで守る」という積極的な心構えにより、災害時の連絡体制や具体的な救援・救護体制づくりを促進するとともに、組織リーダーの育成を図る。	・防災意識の啓蒙・啓発 ・自主防災組織活動支援 ・防災リーダー育成事業
河川環境学習の支援	・河川公園整備により発足した「犀川子ども水辺の楽校」活動の充実を図る。	・河川環境学習支援事業